



やさしさあふれる さくら学校

さくらだより

新潟市立内野小学校

令和8年9月号



「清掃の時間」について考える

校長 山田 里恵子

内野小学校は、縦割り班で清掃をしています。高学年を中心に、一生懸命清掃に取り組む姿が見られます。「清掃の時間」は、大切な教育活動です。夏休み明けの全校朝会で、学校では、なぜ「清掃の時間」があるのかを以下の二つの観点で話しました。

一つ目は、「日本の美しい文化・マナー」であるという観点です。「立つ鳥跡を濁さず」ということわざがあります。これは、水鳥が水面から飛び立つ時に、水を濁らせずにきれいに飛び去る様子に由来していて、「立ち去るものは、見苦しくないように、綺麗に後始末をしていくべきだ」という意味です。訪れた場所をきれいにしてから立ち去ることは、日本の美しい文化であり、人間関係をよりよくするためのマナーです。5・6年生の子どもたちも、宿泊体験教室のめあての一つとして、大切にしました。

FIFA ワールドカップ 2026 で、サッカー日本代表は、粘り強さ、決して諦めない姿勢、チーム力で人々に感動を与えました。同時に感動を呼んだのは、試合後のロッカールームです。日本代表のチームは、毎回必ず、試合会場を立ち去る時に、共に戦った仲間、応援してくれた人々、使った場所や道具に感謝の気持ちを込め、ロッカールームを綺麗に掃除し、きちんと整えます。日本のサポーターは、感謝の気持ちを込め、応援スタンドをゴミ拾いします。これらの姿は、日本の美しい文化であると海外にも評価されています。マナーを守ることは、チーム力向上に繋がります。

二つ目は、「働く大切さを学ぶため」という観点です。「働く」は対価を得るという意味もありますが、「清掃の時間」も「働く」ということです。学級でも、係活動や会社活動をして、学級をよりよくするために役割を決めて働いています。「清掃の時間」は、学校をよりよくするための学校での当番活動です。「はたらく(働く)」とは、「傍(はた)」周りの人が「楽(らく)」になるという意味があります。一人一人が自分の役割を果たすことが助け合いとなり、学校をよりよくすることに繋がります。

話の最後に、自分の毎日の清掃の取組は、学校をよりよくするための活動になっているか右記の観点で振り返ってもらいました。

「みんなの学校はみんなできれいに」は当たり前のことではありますが、今一度、その気持ちを大切に、「清掃の時間」を通して、

「自分の責任を果たす」「互いに助け合う」「よりよくかわる」力を育み、安心・安全で、みんなが気持ちよく過ごすことができる「やさしさあふれる さくら学校」を目指していきたいと取組を進めています。

なぜ、学校には「清掃の時間」があるの？

日本のうつくしい文化・マナー

「はたらく」大切さを
まなぶため

立つ鳥跡を濁さず

(たつとりあとをにごさず)



水辺から飛び立つ鳥が、そのあとに水を濁さない

おとずれた場所をきれいにしてから立ち去ること

日本のうつくしい文化・マナー

はたらく

「傍(はた)」が「楽(らく)」になること



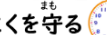
清掃の時間は学校での当番活動

おそうじチェック (自分じぶん)

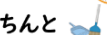
Check 1 清掃にふさわしい服そう



Check 2 始まる時こく・終わる時こくを守る



Check 3 道具を大切に・後始末きちんと



Check 4 自分の役わりをはたしている



Check 5 そうじ以外の話をしない



<内野まつりに参加して、盛り上げました～4年生～>

4年生は、総合的な学習の時間「大好きにいがた 内野の伝統を『残したい』『つなげたい』『広めたい』」の学習で、内野のまちについて学んでいます。主に、「新川」「新川漁港」「内野まつり」などの観点で内野について調べたり、地域の方からお話を聞いたり、実際に体験したりしながら、子どもたちは、内野には、受け継ぐべき、守るべき素晴らしい伝統があることに気付きました。そして、これからも守っていききたい内野の伝統は何か、どんなことかについて考えてきました。

その学習の一環で、内野まつりに参加しました。学習を通して、内野まつりは、昔から地域が大切にしてきた行事であることを知りました。その一方で、参加する町内が減っている現状があることもわかりました。今まで楽しく参加してきた祭り、歴史のある祭りをもっと広めたい、もっと盛り上げたい、そのために、自分たちにできることは何かを考えました。その結果、内野まつりの民謡流しに4年生として参加することとしました。

民謡流しの参加に向け、「内野小唄」「新潟甚句」を練習しました。地域で参加する子ども、4年生として参加する子どももいます。地域の方から踊りを教えていただき熱心に練習しました。また、オリジナルの山車作りにも挑戦しました。山車を作り、昔の人の思いを感じたいと考えたからです。

内野まつり当日の民謡流しでは、オリジナルの山車に灯りをともし、地域の一員として参加しました。すれ違う地域の方と息を合わせて踊り、一体感が生まれました。地域で参加している仲間と手を振り合う姿も見られました。たくさんの地域、保護者の方々が応援に来てくださいました。最後に、本部にお礼を伝えました。地域の方々から温かい拍手をいただきました。

内野をもっと活気付けたい、歴史を守りたいと考え、行動したことで、子どもたちは、「内野まつりを盛り上げることができた」「地域の皆さんが喜んでくれた」ことを実感することができました。



<思いやりあふれる なかよしウォーク>

9月25日(金)は、なかよしウォークでした。ねらいは、「なかよし班で長い距離を歩き通す」「互いに思いやりをもって励まし合い、助け合う」です。重点は、「かかわる力の育成」「地域を学び、より地域を知ること」の2点です。6年生が班全体をまとめ、5年生が、当日の遊びを計画し、リードしました。

出発式で、私の方から、8月9月のめあて「思いやりの心で助け合おう」にかかわり、「みんなが安心・安全な『なかよしウォーク』になるよう『思いやりの心』を大切にし、『思いやりあふれる なかよしウォーク』にしましょう」と伝えました。また、「『思いやり』とは、『相手の気持ちを考えて、その人のためになる行動すること』つまり『自分がされて嬉しいと思うことを相手にすること』です。だから、『ルールや決まりを守ること』も『思いやりの心』です」と、話しました。

6年生は、班の様子を見ながら優しく声を掛けました。5年生は、6年生を上手にサポートしたり帰校後の班の遊びを進行したりしました。1～4年生は、高学年の話聞き、最後まで歩き通したり、楽しく遊びに参加したりしました。最後に、班ごとに5年生、6年生に感謝の気持ちを伝える姿に心温まりました。振り返りにも、「思いやり」を意識して行動できた子どもの記述がたくさんありました。

約60名の保護者、地域、大学生のボランティアの皆様が参加してくださいました。温かく見守ってくださり、安心・安全と、子どもたちの「かかわり」を支えていただきました。感謝申し上げます。また、出会った地域の方々も温かく声を掛けてくださったとお聞きしました。地域に温かく見守っていただき、本当にありがとうございます。

